

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！――

# 動画アリ 松崎大打撃 高崎に次ぐ木戸

1 · 17

11-19



## 分割民営に反対

1120

## 割民営に反対

通運局内の労組は、国鉄改革推進派が勤労、鍛労、水鉄協、東日本の四労組、反対派が國労、全勤労、勤労水戸の三労組といつ色分けになつ

動労の私物化と動労変質解体との数年間にわたるたたかいは、動労本部が正規の機関での討論・決定もなしに勝手に進めてきた国労解体方針・総評脱退・鉄労との組織統一、そして動労解散といった反動方針の強行の中で、この七月全国大会で決定的に重大な事態としてあらわれた。

## 労働者としての道を 守りぬくために決起

**労働者は絶対に奴隸の道を歩んではならない**

十一月十九日、「動労水戸地本」から三八名の闘う仲間が国鉄水戸動力車労働組合を結成した。決起した仲間たちは、動労内において動労の変質・転向に反対し闘いぬく中から「本当に組合員のための組合」を結成すべきとき、と決断し、一人ひとりの組合員の生活と権利・階級的団結を守りぬくために国鉄分割・民営化絶対阻止、十万人首切り反対をかかげて十一月十七日、結成された国鉄高崎動力車連帶労働組合について決起した。

# 國鉄千葉動力車労働組合

86.11.22

千葉市要町一-一八(動力車会館)  
(鉄電)一九三五・六・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

# ついに勅定大改革の第一歩を踏み出る

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

とく破壊されるだけでなく、そのことによつて、国民全体にとつて悲惨な戦争への道を歩むという痛苦な歴史の教訓からも労働者として絶対に容認してはならないものであつた。

動労本部は鉄労と一緒にになつて労使協調、分割・民営＝十万人首切り推進、日の丸、君が代、自衛隊、安保賛成の「鉄道労連」の「結成を進める会」発足、鉄労と合体し「水戸改革協」を十一月十二日デッチ上げたのだ。

この間、先輩達の築きあげてきたたかう動労の伝統・労働者魂・職場での団結から学び、受け継ぎ、本部方針を批判し、これを正すために全力でたたかつてきた仲間に對し、七月に三名、さらに、十一日にはなんと二一名の仲間の組合権停止という暴挙にでてきたのである。

ここに至り、労働者としての道を守り、組合員一人ひとりの権利と利益を守りぬくためには、もはや自分自身の手で闘う動労の伝統を守りぬく組合を結成し闘う以外にはないという結論にいたつた。

決起した三八名の仲間はさらに「私はいまだ小数とはいえ絶対にたたかいの炎を消してはならない。仲間を敵に売つて自分だけ生き残るという労働者の道に反する生き方を歩んではならない。動労本部と地本のような戦争と反動へとつながる道を断固拒否する。労働者階級を裏切り、人民を裏切ることにより、結局自分自身も滅亡する道を拒否し、たたかわねばならない。

そのために私達は自らの手でたたかう「動労水戸」を結成する」と高々と宣言した。

### いまこそ動労革マルを打倒し動労大改革を！

そして、「動労が国労とともに国鉄分割・民営化にあくまで反対を貫いていたら、当局・中曾根内閣といえども今のようやりたい放題のことができなかつたことはあきらかだ。すなわち動労本部革マルの転向・裏切り・屈服が現在の分割・民営化攻撃を可能にしていることはあまりにも明らかだ。動労本部革マルの打倒はいまがすべての国鉄労働者の共通の課題である」と訴えている。

まさに、動労革マル・松崎の動労私物化＝支配の打倒なしに動労の変革はないことは鮮明だ。

われわれは、動労水戸・動労高崎の仲間とともに、動労革マルを打倒・一掃する闘いを実現していかなければならぬ。われわれが並んで歩むが、もつ方ははなこと語している。

動労水戸地本の40人が脱退
新組合結成
〔水戸〕動労高崎（東谷川直義委員長、七百六十四人の組合四千六十九日、同地本脱退を出し、うち三百八人が国鉄水戸動労組合）を新たに結成する」となり、同日、水戸市の市民会館で新組合結成大会を開いた。
新組合は、国鉄の分割・民営化に絶対反対を主張する水戸、高崎の大半の各青年部の三十人が参加している。新組合結成大会の出席者は半労動労、高崎労連の川嶋一代表たる「現在の動労は組織路線を進めていたが十分なところが問題である。水戸労連内では七番目の選定がある。ね」と

**労働者を裏切ることは自分自身も滅ぼす道だ**